

学校教育目標	<b>夢と志をもち 主体的に学び続ける児童の育成</b> ~自分だいすき 友だちだいすき ふるさと原だいすき~	経営理念	「信頼され期待される学校づくり」 (1) 児童が学ぶ喜びを感じる学校 (2) 教職員が主体的に職能を伸ばし、協働して組織力を発揮する学校 (3) 地域から学び、保護者・地域と共に歩む学校
--------	--	------	--

評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	主体的に学習に取り組む意欲と態度の育成学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域素材を生かした探究的な学びの創造</li> <li>・児童一人一人が「わかった」「できた」という達成感をもてる授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる、できる」授業づくりの工夫と改善を行う。</li> <li>・学習のつまずきに応じた学習支援を実施する。</li> <li>・ステップタイムにおいて、計算を継続して行う。</li> <li>・学年に応じた読書の年間目標を設定し、達成に向けて、司書や図書ボランティアと連携し、読書活動の充実を図る。</li> </ul>	国語科・算数科単元テストの平均点が85点以上	100%	99%	101%	101%	3	・全体の国語科単元テストの平均点は、86.2点、算数科単元テストの平均点は、87.0点で目標を上回った。前期と比較すると、国語科は1.8ポイント、算数科は2.1ポイント上回っている。年間を通して、児童のつまずきを把握して、それに応じた手立てを行う授業研究をしてきた成果だといえる。	A	個々のつまずきに対応されていることは、とても丁寧な指導だと思います。	学習のつまずきに応じた学習支援を来年度も継続し、児童一人一人が「わかった」「できた」と思える授業づくりを行う。
						100%	97%	97%	97%	3	・学校全体の標準学力調査における国語科の偏差値は50.3、算数科の偏差値は49.5で目標を下回った。昨年度と比較すると、国語科は昨年度と変わらず、算数科は1ポイント向上している。ステップタイムでは、計算力の向上がみられたが、ひき算やあまりのあるわり算に課題が見られる。また、読書については、どの学年も概ね目標を達成しているが、家庭で読書をしている児童が少ないという実態があった。	A	解析されているとは思いますが、国語や算数のどの分野が不得意なのかを精査するとよいと思います。	
						+	+	6%	60%	1	・学びの基盤づくりに全校で意識統一して取り組んできた。「学習の構え」に関してはある程度定着してきたが、「話す・聞く」「読む・書く」に関しては、まだまだ十分とは言えない。総合的な学習の時間における児童アンケートの肯定的評価を前期と後期で比較すると、「自分で課題を決めて解決に向けて取り組んでいるか。」「では、6%増加。学習した内容が地域や学校、家庭に役に立っていると感じるか。」「では、3%増加している。地域とつながることで、課題を自分事ととらえることができる児童が増えている。」	A	自分の考えを話せるように聞いてもらえる場づくりがあるとよいと思います。本を読むこと、作文も昔ながらですが大切だと思います。	
豊かな心・たくましい体	2	より良い人間関係を築く児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東広島スタンダードの定着(重点項目:挨拶・返事)による規範意識の向上</li> <li>・児童の自己肯定感を高める生徒指導・学級経営の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した挨拶運動を実施する。(各人認定・児童会の呼びかけ)</li> <li>・自他を尊重しあう学級づくりを行う。</li> <li>・他学年の良さを認め合う縦割り班活動(委員会主催行事・学校行事・縦割り班掃除)を実施する。</li> </ul>	児童アンケートで肯定的な回答をする児童の割合90%以上	90%	88%	86%	96%	3	平均値が86%(2月)となっており目標値に至らなかった。6月、10月より微減した。「自分」によいところがある。「自分は役に立っている」「学校が楽しい」の低下が目立っている。児童会活動、異学年交流の機会が十分でなかったことも一因かと思われる。実際の児童会活動、異学年交流がアンケートの後にも行われたものもあり、時期のズレも一因と考える。	A	地域のサポートが増えると大人から、温かい言葉がけが増え、子どもの自己肯定感も高くなるのではないかと思います。	他学年の良さを認め合う縦割り班活動の充実を図る。(縦割り班遊びの回数を増やす、児童会による縦割り班での全校行事を行うなど)
						100%	68%	68%	68%	1	全国平均を上回る項目を67項目に設定していたが、実際は46項目にとどまった。コロナ禍で運動量が減った中で、目標設定に無理があったように感じた。後期に全校児童で1レーを行い、クラスごとに目標をもって取り組めるような活動を行った。今後は楽しく運動することを通して、コロナ禍以前の頃の体力に戻るよう、取り組みを進めていく。	B	ロング屋体懸の綱引きの取組はよいと思います。なわとび検定や大なわ大会など分かりやすい目標にチャレンジできるとよいと思います。	
信賴される学校づくり	3	信賴される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真摯で素早い対応、連携に努め、信賴される学校づくりに努める。</li> <li>・学校便り、学年通信、HPの内容の充実を図る。</li> <li>・学校行事を通して、地域の方や保護者との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。</li> </ul>	学校に対する保護者・地域の方の満足度	95%	96%	107%	107%	4	学校評価アンケートの「学校の取組」の各項目の肯定的評価を平均すると96%で、目標値95%を超えることができた。今後も、信賴される学校づくり、開かれた学校づくりを推進していく。	A	学校だよりが大変わかりやすく、詳しく書かれているので、とても良いと思います。	今後も、信賴される学校づくり、開かれた学校づくりを推進していく。
						90%	93%	93%	103%	3	時間外勤務時間月平均値は93%で、目標値90%をこえることができた。来年度からは、時間外勤務時間を45時間未満とすることが目標になるので、さらに業務改善に努めていく。	A	地域や保護者との連携で先生方の負担感が軽減されたらよいと思います。	
信賴される学校づくり	4	働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と向き合う時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務時間の月平均60時間未満の職員を90%以上にする。</li> </ul>	時間外勤務時間月平均値	90%	93%	93%	103%	3	時間外勤務時間月平均値は93%で、目標値90%をこえることができた。来年度からは、時間外勤務時間を45時間未満とすることが目標になるので、さらに業務改善に努めていく。	A	地域や保護者との連携で先生方の負担感が軽減されたらよいと思います。	来年度からは、時間外勤務時間を45時間未満とすることが目標になるので、さらに業務改善に努めていく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する

■自己評価

4...目標を上回って達成(105%以上達成) 3...目標どおりに達成(95%以上~105%未満)

■学校関係者評価

A...とても適切である B...概ね適切である